

5 つながりを見つける

各チェックポイントの情報を、今度は別の角度から整理していきます。全てのチェックポイントでみつかった風の音、かならずセットで登場した太陽の光とあたたかさなど、付箋を並べ替えながら、感覚環境どうしの関係性を見つけ、模造紙の上にまとめていきます。



6 ことばでまとめる

つながりで整理していくと、まちの感覚環境の姿が浮かび上がってきます。そこで、地域の歴史や文化、現況や抱える課題などとも結びつけ、感じたこと・考えたことを、わかりやすくインパクトのあることは、キャッチコピーや俳句などでまとめてみましょう。

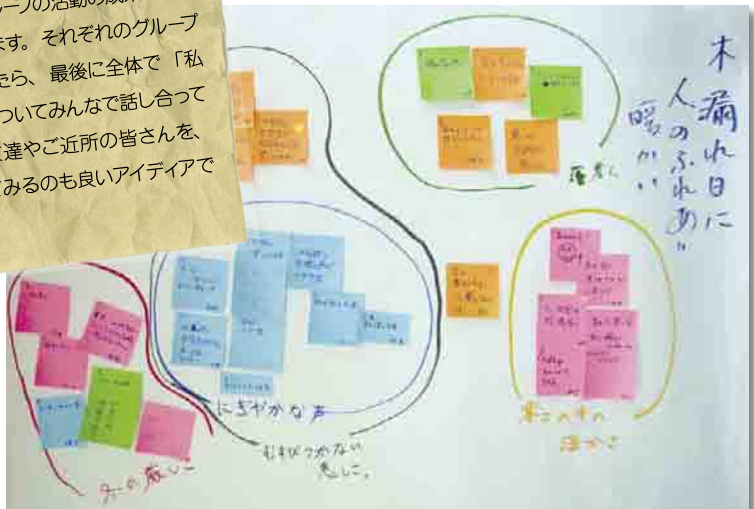


まとめのシート<まち全体用>

まち全体、あるいはチェックポイントを束ねたエリア毎に1枚、シートを用意します。今度は「場所」ではなく、「感覚」に着目した整理を行います。チェックポイント用シートから、特に話が盛り上がった内容や、未来に伝えていきたいものを選びとり、まち全体用のシートの上で再整理します。

7 みんなで発表会

最終的に、グループの活動の成果をお互いに発表し合います。それぞれのグループの発表が終わったら、最後に全体で「私たちのまち」についてみんなで話し合ってみましょう。友達やご近所の皆さんを、発表会に誘ってみるのも良いアイデアです。



3 うごく

まちの“いい感じ”は発見できましたか。みんなで“感覚環境のモノサシ”を共有することができましたか。感覚環境という新たな視点によって、日々過ごしているまちの姿が、今までとは少し違って見えてきたのではないのでしょうか。

● うごいてみよう

「うごく」は、“いい感じ”のまちを伝え、育てていくために、ひとりひとりが活躍する段階です。

それでは、具体的に、何からはじめたらよいのでしょうか。まず“いい感じ”のまちづくりをより多くの人に広めていきましょう。まちの“いい感じ”をご近所や友人に広めたり、ブログやホームページで紹介してもいいでしょう。例えば、「汽笛の丘」「木漏れ日の森」「キンモクセイ通り」など、“いい感じ”のところに名前をつけてみるのもいいかもしれません。ほかの“いい感じ”の場所を訪れて、勉強してみるのも面白いでしょう。みんなと協力して、行政に“いい感じ”のまちづくりを提案できたらすごいですね。

そして、機会をみつけて“感覚環境のモノサシ”を使って、まちを見直してみよう。前にはいいなと思ったところがそうでもなくなっていたり、前には気づけなかったところで、新しく“いい感じ”がうまれているかもしれません。

また、感覚のモノサシ”を共有しておく、まちの目標が描きやすくなります。このように、「みつげる」「つなげる」「うごく」は一度きりではなく、繰り返し続けていき、みんなのお気に入りの“いい感じ”のまちをつくっていきましょう。

とかくまちづくりというと、「見劣りせず」「見栄えがよい」などに目を奪われがちですが、“いい感じ”のまちづくりはそうではありません。ゆっくりとじわじわ効いてくる温泉の効能のようなまちづくりです。それが、場所の居こちや住みごちへとつながり、来訪者へのもてなしの道具となります。感覚環境のまちづくりとは、穏やかな暮らしをささえるまちづくりです。

◎ 「みつける」「つなげる」「うごく」のすすめかたを考えてみましょう

まちの目標



みつける

いつ？

だれと？

なにを？



つなげる

いつ？

だれと？

なにを？



うごく

いつ？

だれと？

なにを？



それから…



“いい感じ”のまちづくりのヒント

～まちづくりへの導入とデザインを考える～

まちづくりへの導入

まちづくりとはそこに暮らす人々が、より良い暮らしをつくるために、まちが抱える課題に対して、ハード・ソフトの両面から取り組みを進めていくことです。感覚環境を織り込むまちづくりの場面は多分野にわたり、その主体も行政・市民・市民活動団体・事業者などさまざまです。

その中で、“感覚環境のモノサシ”を使って集められた“いい感じ”のまち情報は、各分野のプランづくりのための貴重な資料となります。また、計画・設計・整備を市民参画で検討していく場合には、“感覚環境のモノサシ”が一つの評価の基準となり、主体間の相互理解とまちの目標に対する合意形成を助けます。さらに、整備後の変化を、“感覚環境のモノサシ”によりモニタリングすることで、まちを感覚環境の視点から見守ることができます。そして、なによりも各過程で、時間をかけ積み上げられた地域への愛着や誇りが、“いい感じ”のまちの継承につながります。

行政としては、市民の「みつける」「つなげる」「うごく」のプロセスを、まちづくりの様々な場面で有効に活用し、更に「みつづける」「つなぎつづける」「うごきつづける」ためのしぐみを整えることができます。

取り組みの導入としては、まず人がよく集まる場所に注目し、そうした場所の整備をつなげて行きます。さらにもう少し積極的に踏み込んで、複合的な感覚の拠点をづくり、その場の“いい感じ”を損なう要素を取り除き、そして、いい感じをより豊かに感じられるような工夫をすることが重要です。

感覚環境のデザイン

空間を感覚環境の視点からデザインするにはどうしたらよいでしょうか。空間デザインを進めるにあたっては、ある場所からまち全体へという空間の広がりに関わる側面と、場所の継承という時間の流れに関わる側面に注意が必要です。

たとえば街角に、人々が集える覆いや屋根付きの場所を用意すれば、ある時には日射を防ぎ、またある時には雨宿りをする場になります。人々は日差しを遠ざけ風を引き込み涼しさを楽しむ、濡れを遠ざけ湿り気を引き雨音を楽しむ、という身体感覚で味わうひとときを過ごせます。広場にかおりの樹木を植えて木陰を作れば、放射熱が減るだけでなく、風が吹き、葉の音が暑さを和らげていると感じます。

空間形成における複合化のデザインとは、五感の相乗効果で増幅される、あるいは別の新しい心地良さが生まれてくる、そういうことを期待するデザインです。ですから、その場所がまち全体とどのような関係にあるのか、時間経過にともなうどう変化するのか、という意識を常にもたねばなりません。また、まちを全体的に眺め、しかも長期的な姿勢で取り組むことが大切です。その空間を利用した人々の記憶、また愛着や思い入れといった特別な感情が時間をかけて層を成し、徐々に命がふきこまれます。そして、ある種の趣や雰囲気をもったとき、感覚環境のデザインはようやく完成するのです。

感覚環境をいかせるまちづくりの場面



第3章 事例集

本章では、「感覚環境」を身近なまちづくりへといかした、先進的な事例を紹介します。



屋上緑化や街路樹整備等により地表面被覆の改善、排熱抑制や遮熱、断熱を実現し、ヒートアイランド現象を緩和することにより、まちを涼しくするための事業を展開しています。環境省のクールシティ中枢街区パイロット事業も活用し、二〇〇七年より5年間で10棟以上のビルで屋上緑化が実現する予定です。

ヒートアイランド対策

8月、大丸有が暑くなる時期。参加者約千八百人により打ち水、散水アートが実施されました。温度計を手にした参加者一人ひとりがセンサーとなり、都市の体調をモニタリングしました。打ち水前後の気温の変化を測定し携帯サイトに送信。0.2〜0.6度の気温下降効果がみられました。

散水アートプロジェクト 打ち水プロジェクト



ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン

「ラ・フォル・ジュルネ（熱狂の日）」は従来のクラシック音楽のイメージを覆す、大規模でエキサイティングなクラシックの音楽祭です。一九九五年にフランスで誕生し、二〇〇五年のゴールデンウィーク日本に上陸しました。「ラ・フォル・ジュルネ（熱狂の日）」の名の通り、熱いお祭りムードいっぱいの熱い音楽イベント。期間中、大丸有地区の随所で街角音楽会が開催されクラシックの音に包まれます。



1

千代田区・大丸有地区

だいまるゆう 大丸有千年の計

これからもずっと千年先まで、豊かな環境の中で、人々がいきいきと働き、くらすために、どんな大丸有（大手町・丸の内・有楽町）のまちをつくらなければいいのだろう。まちは、そこで過ごしてきた人々の営みやあしあとを「まちの記憶」として宿しながら、次の時代に受け継がれます。だから、大丸有では、これまでのあゆみを大切にしながら、遠い未来を見すえ、まちのデザインが考えられています。

このようなか、みんなが安心・安全に過ごせる快適なまちをめざし、感覚環境のデザインもまちづくりに取り入れられています。具体的には、道歩く人が涼しく感じられるよう季節の感じられる街路樹を植栽し木陰をつくり、ビルの屋上緑化等を通じてヒートアイランド現象の緩和を図ったり、また、人と地球にやさしい多様な光の世界を展開するイベントが開催されたりしています。さらに、クラシックのフェスティバル「ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン」の期間中には、街角の随所で音楽会が開催され、大丸有のまちが音楽で包まれます。



新丸ビルの10階のエコを創る広場「エコツェリア」は、丸の内エリアの街づくりで培ってきた、様々な環境への取り組みをご紹介します。これからの環境対策をみんなで考え、生み出し ていくためのスペースです。

大手町・丸の内・有楽町地区
再開発計画推進協議会
<http://www.ares.dlinejpc/tcc/index.html>

光都東京・LIGHTPIA

クリスマス時期、大丸有地区は人と地球にやさしい多様な光に囲まれます。平成19年は「フラワーファンタジア」を実施。花のタワーと絨毯が、昼は自然の花の鮮やかさで大丸有地区を彩り、夜は煌びやかな光と音の演出により幻想的な空間をつくりました。あわせて、自然エネルギーで街の灯をともし企画も進行中です。



2

奈良県

あおによし 奈良の京は 咲く花の
 にほふがごとく 今さかりなり

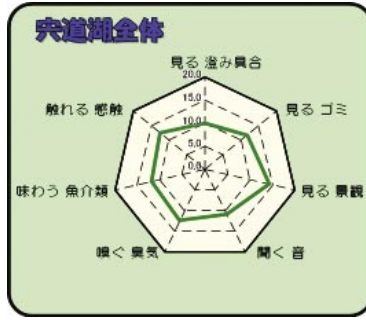
和歌にも歌われた古都奈良の魅力は、絵葉書のような世界だけに留まりません。平成18年、五感で楽しめるいきいきとした魅力を奈良に加えていきたいという趣旨で、「わたしのおすすめ『五感で楽しむ奈良』」が公募され、全国二二〇七件応募の中から一〇八件が選定されました。五感で発見された新たな魅力は、奈良という歴史深いまちにさらなる味わいを加えています。



写真上：臭覚 / なら燈花会のろうそくのにおい
 写真中：聴覚 / 鹿よせのホルンの音（奈良公園）
 写真下左：五感複合 / 原始林を歩く（春日山原始林）
 写真下右：視覚 / 奈良市内夕焼け 写真提供：奈良市観光協会

私のおすすめ「五感で楽しむ奈良」
<http://www.pref.nara.jp/kanko/gokan/108/index.html>

地元の市民モニター・地元中学生・こどもエコクラブが自らの感覚のモノサシを使い、平成16年度から宍道湖・中海周辺の環境（湖水の澄み具合・ゴミ・景観・音・臭気・魚介類・湖水等）を観察しています。科学的データは一般の人々にはわかりにくいのですが、感覚のモノサシを使うことで湖沼の環境を身近に感じることができ、宍道湖・中海への関心が高まりました。



3

島根県

宍道湖・中海の環境を五感でチェックしてみよう!

「五感」ってなに? チェックしたら何がわかるの? わたしたちにできることから始めよう! 「五感」とは、私たちが感じることでできる次のような感覚のことです。宍道湖・中海の環境がどういふ状態がわかります。みんなで行動するための方法を話し合い、実際に行動してみよう。

五感による湖沼環境指標

五感	観察項目	満 足 度	判断対象の例	点 数
見 る	湖 水 の 澄 み 合 合	澄んでいる (20点)	水の透明度、色、アオコ、香気など	10.0 点
		少しにごっている (10点)		
		にごっている (0点)		
見 る	ゴ ミ	ほとんどない (20点)	水面や湖岸に見当たらない	11.7 点
		少し見当たる (10点)		
		たくさんある (0点)		
景 観	景 観	美しい心がなごむ 風情がある (10点)	周囲の山並みや建物、朝日・夕日、シジミ漁の風景など	7.1 点
		特に感じることはない (5点)		
		殺風景・見逃しが悪い (0点)		
聞 く	音	ここよく感じる音・静かで落ちつく (10点)	鳥の鳴き声、さざ波の音、近くの寺の鐘の音、船舶の音など	5.3 点
		特に気にならない音 (5点)		
		うるさく感じる音 (0点)		
嗅 ぐ	臭 気	ここらよい・香り・臭いはない (20点)	潮の香り、木や草花の香り、排気ガスの臭い、煙の臭い、ヘッドライトなど	12.3 点
		特に気にならない臭い (10点)		
		食べたく感じる (0点)		
味 わ く	魚 介 類	食べてみたい (10点)	シジミやアサリなど宍道湖・中海でとれる魚介類	5.9 点
		どちらでもない (5点)		
		食べてみたいと思わない (0点)		
触 れ る	湖 水 の 澄 み 感	触ってみたい (10点)	手や足を湖水につけてみたいかどうか	6.2 点
		触ることに対し抵抗がある (5点)		
		触りたくない (0点)		
■五感による湖沼環境ランク表				合計
合計点数	ランク	評価内容		58.6
80点以上	A	おおむね良好で親しみやすい環境であると感じられる		
50点~79点	B	やや気になる面があるが、ますます良好な環境であると感ぜられる		
40点以下	C	快適さに欠け、親しみにくい環境であると感ぜられる		

宍道湖・中海周辺の感覚のモノサシで測る

宍道湖・中海の環境を五感でチェックしてみよう!
http://www.pref.shimane.jp/environment/kankyo/kankyo/shinjko_nakaumi/sn_gokan.html

まちづくりに「かおり」の要素を取り込むことで、良質なかがり環境を創出しようとする地域の取組を支援するために、「かおりの樹木・草花」を用いた「みどり香るまちづくり」企画コンテスト（主催環境省）が行われ、平成18年度は「かおりとチヨウの森」づくり、平成19年度は「香りとさえずりの杜」「コミュニティガーデンづくり」が環境大臣賞を受賞しました。



4

松本市・稚内市

みどり香る まちづくり

みどり香るまちづくり企画コンテスト

http://www.env.go.jp/air/akushu/midori_machi/index.html

奈川地区「かおりとチヨウの森」づくり
（長野県松本市・特定非営利活動法人 信州ピオトープの会）

チヨウの好むハギ、アベリア、ブッドレアなどを植えてチヨウを呼び寄せ、飛ぶ姿を観察したり、生きもの情報板を設置したりすることで、子供の環境教育にも役立っているという企画。現在、植樹された木々は開花し、かおりを楽しめるだけでなく、チヨウやいろいろな昆虫が飛び交う空間が創出されています。



稚内市恵北地区「香りとさえずりの杜」コミュニティガーデンづくり
（稚内市歴史・まち研究会／稚内市恵北・増幌地区まちづくり委員会）
55年間放置されていた土地に、宗谷地区の気候風土にふさわしい「香りの樹木」や「実のなる樹木」を植栽し、野鳥を集め、市民の憩いの場を再生する企画。地域住民を中心に自主管理による地域コミュニティガーデンづくりが行われます。



伝統を伝え、 まちに生きる鐘

平成8年、全国各地で人々が地域のシンボルとして大切にし、将来に残していきたいと願っている音の聞こえる環境（音風景）が広く公募され、音環境を保全する上で特に意義があると認められるものとして、残したい“日本の音風景100選”が選定されました。100選は自然環境だけではなく、文化や地場

産業が形成する音風景も含め、幅広い内容になっています。なかでも、地域の生活文化と深く結びついている鐘の音については全国各地の10風景が選定されました。時を知らせる鐘の音など、日本人の心に今でも響く音は、今でも地域の人々に親しまれ保全されています。



残したい“日本の音風景100選”
<http://www.env.go.jp/air/life/oto/>

写真左上より：

函館/リトス正教会の鐘（北海道/函館市）

善光寺の鐘（長野県/長野市）

寺町寺院群の鐘（石川県/金沢市）

上野のお山の時の鐘（東京都/台東区）



知る区ロードの日 探検隊員たちが、1年に1回、一同に集う日です。発見したことや感じたことを探検報告として書きます。探検報告の用紙はチェックポイントでもらえます。みんなの探検報告は約半年後に、みんなが感じたまち・発見したまちとして「すぎまるマガジン」に編集されます。



6

杉並区

知る区ロードを 歩くと感じる事

東京杉並区の知る区ロードは区内を巡り、感覚で「杉並という土地の感覚」を感じるきつかけづくりのために創られました。コースを巡ると、感覚をテーマにした「オアシス」と呼ばれる体験施設が設置されています。

知る区ロードの特徴は、その施設のユニークさと共にそこを拠点とした活動にあります。活動は、区民が中心になっている「知る区ロード探検隊」がさまざまなプロジェクトを推進しています。例えば、ルートの目印をみんなで作るワークショップ、オアシスのさまざまな装置の設置運営、そして毎年夏休み時期に開催される「知る区ロードの日」には、ルートをみんなで歩き探検地図を作成、参加者との交流イベント等が実施されます。現在、20年を経てそれらの活動は、区民の自主的な運営へと移行が予定されています。区民の感覚環境を運営するチカラがためられようとしています。

東京 杉並区「知る区ロード」
<http://www.suginami-siruku.org/>



はなのオアシス



みみのオアシス



ときのオアシス



はだしのオアシス

橘のかがまちを興す

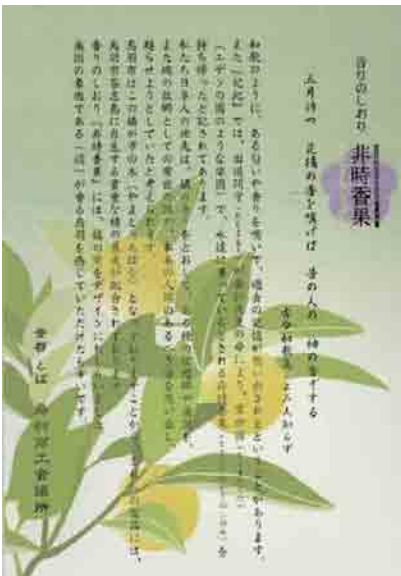
たちはな



橘の木とかおりががたちになるさまざま

橘は数少ない日本固有のかんきつ類で、そのさわやかなかおりは古代より和歌に歌われ人々に安らぎを与えてきました。鳥羽市の答志島に原木が多く自生し、倭橘（やまとたちはな）は、鳥羽市の木にも指定されています。近年、そのかおりから鳥羽のまちが動いています。市民からの苗

木の提供により、市の木として市民自らが植栽する活動が活発化し、これまでに五千本の橘の木がまちに植えられました。また、商工会議所が中心となり、橘のかおりを活用した商品化が試みられています。秋の実がなるころ、まちに橘のかおりが漂います。





● 感覚環境設計テキスト作成検討会の構成

< 総合 >

座長 小林 享 前橋工科大学 大学院 教授 (工学部 / 工学研究科 / 建設工学専攻)
井上 成 大手町・丸の内・有楽町地区再開発計画推進協議会 (三菱地所株式会社都市計画事業室副室長)

< ねつ >

一ノ瀬 俊明 独立行政法人国立環境研究所主任研究員 (社会環境システム研究領域)
村上 暁信 東京工業大学大学院 講師 (総合理工学研究科 / 環境理工学創造専攻)

< 光 >

面出 薫 (株)ライティング・プランナーズ・アソシエイツ 代表取締役
富田 泰行 (株)トミタ・ライティングデザイン・オフィス 代表

< かおり >

水庭 千鶴子 東京農業大学 講師 (地域環境科学部 / 造園科学科)
吉武 利文 (有)香りのデザイン研究所 所長 (パフュームデザイナー)

< 音 >

田中 直子 宮城学院女子大学 講師
坂本 慎一 東京大学生産技術研究所 准教授

【写真：「残したい日本の音風景 100 選」より】<http://www-gis2.nies.go.jp/oto/>

左上 : 川越の時の鐘 (埼玉県 / 川崎市)
左中上 : 川崎大師の参道 (神奈川県 / 川崎市)
左中下 : 横浜港新年を迎える船の汽笛 (神奈川県 / 横浜市)
左下 : からむし織りのはたき音 (福島県 / 昭和村)
中上 : 水沢駅の南部風鈴 (岩手県 / 奥州市)
中中 : 大平山のおじさい坂の雨蛙 (栃木県 / 栃木市)
中下 : 常光寺境内の河内音頭 (大阪府 / 八尾市)
右上 : 柴又帝釈天界隈と矢切の渡し (千葉県 / 松戸市、東京都 / 葛飾区)
右中 : 樋橋の落水 (千葉県 / 香取市)
右下 : 博多祇園山笠の昇き山笠 (福岡県 / 福岡市)

“いい感じ”のまちづくり

感覚環境のモノサシをまちづくりに織り込むために

発行：環境省 水・大気環境局大気生活環境室

作成：感覚環境設計テキスト作成検討会

編集・デザイン：(株)タム地域環境研究所 / (株) LAO



環境省 水・大気環境局大気生活環境室

TEL: 03-3581-3351(代)
<http://www.env.go.jp>



環境省 水・大気部環境大気生活部環境

TEL 03-3688-2211

FAX 03-3688-2211

URL www.nies.go.jp